

武蔵野市第五期長期計画・調整計画策定委員会（第13回）

1. 開会（午後7時）

（企画調整課長が本日の議事内容の説明をした）

2. 議事

（1）まち・ひと・しごと創生について

【委員長】 「まち・ひと・しごと創生について」、昨年11月21日に出された国の法律も含めてご説明ください。

（企画調整課長から、資料1「まち・ひと・しごと創生について」、説明があった）

【委員長】 議論の錯綜を防ぐための確認です。調整計画が最上位計画で、これまで議論してきた調整計画を踏まえて、その枠組みの中に総合戦略をどう織り込んでいくかということです。平成27年から実施で、調整計画のほうは28年から実施、ちょうど重なる5年ということになります。そういう意味で、27年については既に実施事業の一定の予算化が行われているというところが現状かと思います。

【A委員】 武蔵野市枠の4000万と地方消費喚起の5000万の合計9000万円は、27年度限りということですか。27年度実施事業でプレミアム商品券が一番高額の割り振りになっているのですが、これは使途が限定されている「ひもつき」ですか。なぜこの事業が選ばれて、この予算で実施されていくのかという根拠を教えてください。

「武蔵野市人口ビジョン（目指すべき将来の方向性）」と「27年度実施事業」の内容があまりにもかけ離れているので、どういうつながりを持って考えておられるのかを教えてくださいたいと思います。

【企画調整課長】 補助金の枠が示されているのは27年度です。ただ、国は28年度以降も予算を確保したという報道もあるので、一定の補助があるのではないかと思います。

地方創生事業の補助金は地方消費喚起の補助金と地方創生先行型と2種類あり、地方消費喚起の武蔵野の割当分が5000万円でした。幾つかメニューがありましたが、東京の自治体はプレミアム商品券を実施しているところが多いため、武蔵野もプレミアム商品券で考えて、関係者との協議を進めています。

先行型も国から一定のメニューが示されてはいたのですが、武蔵野市の人口ビジョンから割り出される課題解決のために何が必要なのかということで、まず、勤労所得層の減少が予想されていますので、働く人を増やしたいという思いからの創業支援の300万円。観光者の受け入れで商業振興を図りたいということが2番目です。最後は、福祉避難所として指定されている保育園への防災用品の配置とかマニュアル整備など、子育て家庭支援事業を挙げています。

28年度以降の事業については、長期計画・調整計画の個別事業の中からピックアップして総合戦略に盛り込んでいきたいと考えています。

【B委員】 300万円ではどんな創業支援ができて、それがどんな武蔵野市らしさにつながって、武蔵野市の未来にどんなふうになるかを及ぼすとお考えでしょうか。私は前から稼げるまちになることの必要性を訴えていたので創業支援事業はうれしいのですが、いろんな課題の中でこの4つを選んだ理由と優先順位のつけ方をご説明ください。

【企画調整課長】 まず消費喚起は、消費喚起という枠で決まっていたのでプレミアム商品券ということです。そのほかの3つは、本来であれば人口ビジョン、総合戦略をつくってから事業に割り当ててのですが、国が26年度の補正予算をそのまま27年度に繰越明許している関係で、国から実施計画の提出を求められましたので、市の当面の課題として先行してやれる事業を抽出しました。28年度以降は、総合戦略の中で位置づけてから事業実施と考えています。

【C委員】 消費喚起に関して、別のやり方をしているところがあるのでしょうか。あえてプレミアム商品券を選んだ意味を知りたいと思います。これから総合戦略を作ってきたりやるということですが、インキュベーション施設創設など創業支援事業に多く割り当てられるべきなのではないかと考えます。

【企画調整課長】 消費喚起は、近隣の市ではスクラッチをやっているところもあります。例示としては、ふるさと名物商品、旅行券、低所得者向けの商品サービス購入券などもあります。広く多くの方の手に渡るように、プレミアム商品券を選んでいる自治体が多いというのが現状です。

インキュベーションは1事業者に100万円を3カ所と考えています。補助金を組んだ方がいいが使われないと困りますので、この額で抑えたというのが1点と、Wi-Fi設置が意外にかかりまして、本当は三駅でやりたかったのですが、吉祥寺のまちを考えています。

【委員長】 これは議会の承認を受けながらやっているのですか。

【総合政策部長】 議会には26年度の補正予算で認めていただいて繰越明許し、27年度事業として実施するものです。国から示された時期が非常にタイトな中で、27年度に実現できるという確実性を持って、限られたところで決定したということです。

【委員長】 国の補正決定ありきで、武蔵野市はたまたま人口推計と調整計画の策定中だったので、その中に織り込むという論理的整合性を立てながら、とにかく補助を受けるということですか。

【総合政策部長】 武蔵野市は28年度からの調整計画の策定中で、人口推計も昨年度終わってしまいました。その点は好都合だったのですが、今年度の総合戦略はこれから考えます。

【D委員】 もともと地方創生事業で、武蔵野市に補助金が回ってくるというのは想定外でした。ただ、現実に国から5000万、東京都からも上乗せして予算を出すというものを、要りませんということでもないだろうと考え、あらかじめ与えられたメニューから、これなら一定の効果はあるだろうというものを選びました。委員長のご推察のとおりです。

【委員長】 今後のことを考えますと、武蔵野市の将来の方向性の中で議論していかなければいけない。

人口が増えたからといって喜んでいてる場合ではなくて、これからますます深刻な状況が来るので、当然この問題に対処していくべきだと思うのです。ただ、補助金は後で厳しい報告義務がありますので、そういうものも読みながら、整合性を図っていただいたと認識しています。

【副委員長】 「武蔵野市人口ビジョンとその方向性」の3点の基本認識と、「武蔵野市人口ビジョン（目指すべき将来の方向性）」が対応していません。ここの差をどう理解していいのかというところがよくわからないのです。例えば「住み慣れた地域で生活を継続できる社会の実現」は高齢者のことだけ挙げていますが、生産年齢人口の減少に伴う市税収入の減少は高齢者だけの問題ではなくて、働きたい障害者が働ければ、社会保障の使い手から支え手になっていく。ひきこもりの方も就労意欲、希望は非常に強いので、そこをどう支援していったって働き手になってもらうのかというアプローチもいいでしょう。介護休暇のために何万人も働けなくなっているというのも大きな問題です。総合戦略を練るときには、データの表層だけでなく、深層の分析も入れていただきたいという感想めいた要望です。

【企画調整課長】 人口ビジョンについては、武蔵野市は人口増という推計を示しましたが、一方で、日本創成会議が国勢調査から出した人口推計によると、武蔵野は消滅自治体に入っていました。一歩間違えると、そういう可能性もゼロではないかもしれない。そのあたりをしっかりと分析していかなければいけないと思っております。調整計画の策定の中で深い議論をしていただいておりますので、調整計画の中から事業を抽出して、重点課題を人口ビジョン（目指すべき将来の方向性）に合わせて、最終的には、調整計画と総合戦略を整合がとれるような形でまとめていきたいと思っております。

【E委員】 そもそも国がどうしたいのか、言っていることが全然理解できないのです。例えば「若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現」と言われても、結婚したくないとか、働きたくないという人も中にはいるわけで、こういうことはリードされていくことなのか。起業してもらうというのは、将来、その方たちに成長していただいて、雇用主としてやってもらうということまで国は考えているのか。「地域の特性に即した地域課題の解決」も、国から示されたメニューが果たして地方ごとの課題を解決できるくらい幅広いものなのかどうか。国は東京一極集中を是正したいということですね。そこだけを受けとめると、武蔵野市の人口ビジョンはこれで終わってはいけなくて、ここから地方に人を何人送り出すのかということまで考えなければいけない。そんなこと、国に言われることなのかなと思います。

僕らとしては武蔵野市のために考えたことが、それでは補助金の対象になりませんよと言われたときにそのお金をどうするのか、また武蔵野市の中でお金がないという議論に全てが動かされていくとしたらそれもどうなのか。「単なる東京からの機能や人口の移動を容認するのではなく…」という市長の施政方針が国に随分反発するような物言いなのかなと思って、ここまで言うのであれば、国にきちんと反論していく、もしくは武蔵野市はこうだと示していくべきなのかなと思っているのです。

僕らが調整計画でいろんなことを策定していったときに、総合戦略のほうが先に決まっていて、自分の中で総合戦略について国の言っていることがわからない以上、すごく曖昧に調整計画をつくってしまっただけで、結局、調整計画の中から要素を拾い切れませんでしたとなったときに、果たして調整計画はそれでいいのかなと思うのです。

【B委員】 私、内閣官房も取材しましたが、政府は首都圏から地方に定住者を増やそうとしています。人口で一律にばらまくのではなくて、優秀なまちには手厚くお金を渡しますよと、いい意味、切磋琢磨さ

せようとしている施策だと思えます。

地方は本当にリスクを感じていますから課題を真剣に考えるのですが、武蔵野市は課題がそんなに自分ごとになっていないのではないのでしょうか。私たちがやるべきことは、武蔵野市から人が離れないように、ゼロ歳から死ぬまで武蔵野市で過ごしていただける魅力的な戦略と施策を、知恵を出し合って用意することではないかと思えます。

【委員長】 内閣官房は、地方の概念をどういうふうに位置づけているのでしょうか。最初から首都圏は外すというふうに考えているのでしょうか。

【B委員】 首都圏にあっても地方自治体ですから、外すとは考えていないですよ。

【委員長】 となれば、武蔵野市の問題は当然主張すべきであって、予算をつけるべきだと思います。

【C委員】 補助金をもらえる計画を出せるかどうか自治体の能力ですから、もらえるものはもらって、必要なものにちゃんと使っていくことは大事だと思います。

ただ、武蔵野市ができてきていることは、職員がつくり上げたという以上に、マスコミとか市民がつくっている部分がすごく多いのですが、ほかの地方自治体の職員は、自分たちが相当頑張らないと本当に近々に消滅してしまうのではないかという危機感があります。

先ほどB委員がおっしゃったように、ゼロ歳から死ぬまで武蔵野市で生きられることが保障されるサービスが提供されないと、地価も高いから、これを売ってもっといいところに行きましょうということが可能な市民であることもよく考えておかないと、ちょっと怖いと思います。

【委員長】 富裕層が他の地域に移転するという問題もいずれは視野に入ってくるかもしれないですが、今はそういう議論をやり切れるとは思えないと私は判断しております。

【副委員長】 議論があちこちに行っているので、今までの議論を踏まえた上で、もう一回、どこに、どういう形で調整計画に練り込んでいくのか、いかないのかという議論に戻しますか。

【委員長】 私どもはあくまでも策定計画を立案中であって、その過程の中に9000万の補助がつく総合戦略が入ってくるので、それを我々の長期計画の中に整合的に織り込めるかどうか。もらったら結果責任を果たさなければいけないので、その責任が果たせたという報告ができるかどうか。そういうことを踏まえて、つなぎの部分何か考えていただきたい。

【副委員長】 「長期計画との関係」で、どこに、何を、どう盛り込んでいくかという事務局案はありますか。

【企画調整課長】 どちらが先かという点、私どもは調整計画が先と思っています。確定は後になりますが、調整計画の計画案ができた後に総合戦略をまとめていくというスケジュール感です。

今できている分析から言いますと、18歳から22歳の転入が多く、22歳以降はずっと転出のほうがちょっと多いという形です。昔から10年間で3分の1の人口が入れかわるという武蔵野の特徴もあります。

す。転出も転入も三鷹市が多くて、転出のほうは西に、転入は都会から、あるいは地方から来る方が多いというところまではわかっております。その細かい理由づけまではとっていないのですが、市政アンケートなどを見ると、転出の理由も転入の理由も、交通の便がよいと言う人と、悪いと言う人と、地域によってさまざまです。そのあたりは、もう一度分析しなければいけないと思っております。

現段階での事務局の考え方は、例えば「目指すべき将来の方向性」、総合戦略の柱になる大もとの考え方と、調整計画の重点取組が一致しているとか、あるいは、横串の施策の考え方と総合戦略の考え方が一致しているとか、長計がまとまった段階で総合戦略に持ってくるとか、そういう形が一番わかりやすいと思っています。

【F委員】 先ほど企画調整課長は、社会保障費を抑えらるとおっしゃられました。それが介護予防や健康寿命の延伸につながると。しかし、人間、どこにお金が一番かかるかという死ぬ直前なので、長生きしても、介護予防を頑張っても、実際には社会保障費は減りません。これは医療経済学的にも明確なエビデンスがあります。我々はあくまでも生活の質の向上を一番のミッションとして掲げ、そのためにどういったものが必要で、どういった医療や介護、障害、あるいは普通に暮らしている方々の子育ての話置いていくかという考え方をもっていかないと、これだけの努力をしたにもかかわらず社会保障費が減らない、高齢者世代の努力が足りないという形で世代間対立の話になってしまいます。何を指すのかを我々はしっかりと認識しなおすべきだということが1点目です。

2点目はあくまで確認です。私は、Wi-Fi の設置は別におかしくないと思うのですが、この手のネットワークはスケールメリットが非常に働くものなので、武蔵野市が独自に設置するより、むしろ既に大きい事業体に補助を与えていったほうがはるかに効果が高いのではないのでしょうか。個別で敷設してしまうと、武蔵野市では使うことができるものの、他所では使えないということが起きかねません。また、そのシステムをきちんと多言語で説明する能力がないと、結局、観光客が使えないことになります。どのように広域にしながら、かつ、武蔵野市でお客を集めるかということを考えることこそが、今後の調整計画に当てはまるのかなと思います。実施事業の個別をどう継続的に考えていくのかというコメントと提案です。

【委員長】 実施事業の問題と継続性の問題は必ず出てきますので、何かお答えがあればいただきたい。

【企画調整課長】 1点目の話はまさにそのとおりだと思っております。今後進める中で、そこがぶれないように、数字合わせでないような形でしっかりやりたいと思いますが、地方都市のように働く場を増やして人口を呼び戻そうという単純なものではない。武蔵野市なりの課題を内部で議論して、また策定委員会にもお示しできる機会があればと思っています。

Wi-Fi については、民間に設置してもらおう方向で考えております。当然、広域連携も民間のほうが進んでいますので、民間活用の中で広がりを持ってできる形で進めております。

【B委員】 今のF委員のご指摘、すごく大切なところだと思います。QOLと健全な行財政のどちらかをトレードオフするのでなく、武蔵野市はQOLも高めるし、いろんな知恵を結集して行財政も健全にしていくということが、調整計画の根幹にあるといいのかなという気がしました。

【委員長】 予算はどうしても硬直化しやすいので、その辺の柔軟性を確保しておくことは理念として

どうなんでしょうか。

【企画調整課長】 創業支援についてはもともとやる予定でございましたので、規模をこれからどう考えていくかというのが1つあると思います。補助金をもらえれば、もらうにこしたことはないです。

Wi-Fiとか観光客の受け入れにつきましては、オリンピック・パラリンピックも見据えて、武蔵境に多くの観光客が来る可能性もありますので、三駅周辺までは広げられればと思っております。

子育て支援については、今後これを継続するということではありませんが、武蔵野にずっと長く住んでもらうためにどうすればいいのかという視点で重要な課題だと認識しています。

【委員長】 調整計画の枠の中でということですね。

【企画調整課長】 はい。補助金のメニューに寄り添った事業を入れるというより、先に課題解決の事業があって、もらえるものはもらっていくというスタンスです。

【E委員】 スケジュールのところで、もう1点だけ確認させてください。今、調整計画のほうが先だとおっしゃいましたが、「今後のスケジュール」は、10月に計画策定になっていますね。議会に行政報告をされて、計画を広報されて、事業実施がそこからスタートしていきます。僕らのほうの「今後の策定スケジュール」は10月に3回、意見交換会、最後にやるのが10月24日です。その後、10月30日に市議会議員の皆さんとの意見交換会、作業部会が11月にあるわけで、調整計画が後だというのが僕の認識です。調整計画の案が出たって、意見を求めるということはそこで当然修正があるでしょう。筋道としてちょっと説明が足りないのかなと思うのですが、そこはどうでしょう。

【総合政策部長】 E委員のご指摘は確かにそのとおりで、あくまでも調整計画の方向性を受けて、その中で、ある程度安定したものについて総合戦略のほうに盛り込んでいくという基本的な考え方です。

(2) 調整計画案（前半部分）について

○夏目委員長 次は、調整計画案（前半部分）に入ります。

（企画調整課長から、資料3「第五期長期計画・調整計画案」について説明があった）

【C委員】 8ページの「魅力ある市民文化の発信」ですが、私はここは都市文化がいいと思っています。武蔵野市の文化を市民がつくり出してきているのは当然のことです。市民がつくり出しているだけではない総合的な武蔵野らしさを発信していくことが、都市文化だと思うのです。例えば商業地の問題とか、交通的に至便であるとか、大学が近くも含めて数が結構あるとか、本屋が多いとか、そういうことも含めた総合的な文化を考えると、市民文化も含めた都市文化というほうがいいと思います。

【委員長】 都市文化と市民文化の概念的なものは、どこかで区分されたことがあるのですか。

【企画調整課長】 第四期長期計画・調整計画の中のプレイスについての記述で、武蔵野として文化をどう捉えるかという視点で、文化という言葉が出てきます。五長では、市民文化の醸成ということで市民文化を定義しました。今回はオリンピック・パラリンピックも見据えて、文化プログラム等の予定もありますので、武蔵野として文化をどう発信していくかという意味も含めると、C委員の言われたとおり、都市文化という概念のほうがいいのかなという気がしております。そうなりますと、都市文化の定義を少し書き込まないといけないと思っています。

【委員長】 都市文化という概念を使いながら、武蔵野市の中に整合性を持った書き込みができるかどうかだと思います。

【C委員】 書き込みをすればいいと思うのです。例えばここに「魅力ある本市」と書いてあるのですが、その魅力の構成要因が何なのかということも含めてもう少し書く。もちろん、市民文化も大事ですが、その構成要素の総体が都市文化なのだという書き方をちょっと加えたほうがいいと思います。あえて「市民」と言うのは武蔵野市民の「市民」なのか、それともシチズンシップの「市民」なのか。後者の部分を強調するとしたら、反対に、その書き込みももうちょっと必要だと思います。

【企画調整課長】 どちらかという、シチズンシップの文化という認識でした。確かに五長の中にも、都市文化という言葉が出てきます。ただ、明確に都市文化と市民文化を使い分けていなかったと思いますので、ここで都市文化という言葉にして、それも書き込んでいくという形がいいと思います。

【F委員】 コミュニティ構想やその他の文化の議論は、いわゆるシチズンシップの議論としてあったのですが、この部分の議論はまさにC委員がおっしゃった都市文化の話です。武蔵野市がこれまで積み重ねてきたものは、どちらかというシチズンシップにかかわる市民文化の伝統のほうが強いので、それはそれで着実に積み重ねていってほしいものであり、それは市民活動と言われるものに近いと思います。市民文化と都市文化の相違についての整理をして、我々が注意をしながらやっていけば、そこまで混乱しないのかなと感じました。

【委員長】 どちらも大事な概念だと思いますので、整合性がとれるようによろしくお願いします。

【A委員】 2ページの第1章、「これまでの成果と情勢の変化」で、「成果」という言葉は不適切ですので、「成果」と書かないでください。書くのであれば、ちゃんと評価をして数字を出していただきたい。

5ページの「人口推計」に、危機感がないということがすごくあらわれているのです。特に1の「人口推計」の2段落目、「その後、ここ数年の出生者が20歳代後半を迎えて再度上昇に転じ」と書いてあるのですが、これは今生まれている人たちが20歳までずっと武蔵野市にいたことが大前提になっていて、人口移動が全く考えられていない。武蔵野市が消えると言った推計方法と同じ推計です。武蔵野市をもっと魅力あるものにしなければ、この人たちはいなくなります。

【F委員】 A委員の議論と全く同じで、若年人口が増えたということは、この若年人口の定着戦略が必要になってくるということをごここから読み解くべきであって、他市に比べて高齢化が比較的ゆっくり

なので、武蔵野市は意外にいいですよという話にはならないということです。

もう1点、後ろの「この人口推計から」の社会保障費の増加のところ、この点を記載するのであれば、後期高齢者の人口比率を出すべきだと思います。ここで言う社会保障費は年金の議論ではありませんので、必然的に要介護状態になりやすい、医療費がどうしても高くなりやすい後期高齢者の議論であるということが明確にわかります。独居とか高齢者のみ世帯の増加に伴うというよりは、後期高齢者の人口比率が高まることによって必然的に起きる問題です。

またこの点は、多世代の社会参加を可能にし、地域の支え合いの担い手になっていただきたいという我々のメッセージにもつながる部分だと思うのです。特に65歳から74歳の方々はまだまだ非常に活動的だし、いろんなことができる可能性のある世代でもあります。その世代はぜひ活躍していただきたいし、そのための支援を我々は行っていく。図の情報量が増え過ぎてわかりにくければ補足でも構わないので、後期高齢者も分けてください。

【企画調整課長】 まず、討議要綱は「成果」という言葉を使わずに「実績」に変えました。こちらも、数値を入れるほどのボリュームはとれませんので、「実績」という言葉に変更させていただきます。

人口推計は、コーホート要因法を使って分析をしております、転入も転出も、社会増減は入っています。F委員のご指摘の後期高齢者の数字自体は出せると思いますので、それはこの中でうまく出していきたいと思います。

【E委員】 僕は、数字は必要だし、出していただきたいと思っているのです。本文のボリューム云々はあるでしょうから、そこに盛り込むかどうかは別として、調整計画に限った話でなく、今後六長にしても、数字を出しておかないときちんとした議論とか意見が出てこないのではないかと思います。数字で書けないところもあることはわかっていますが、数字で出ているところはきちんと数字で出すことを工夫していただきたい。これは希望です。

【B委員】 今の発言に関連して、長期計画のKPIの設置は今までどうされていたのでしょうか。

【企画調整課長】 KPIという言葉は使っておりませんが、個別計画には目標数値の設定はしております。長期計画は抽象的な記載が多いので、それに対するKPIの設定はしていない項目が多い。E委員の言われたことは、長計は示せるものと示せないものがあると思いますので、そのあたりはまたご相談させていただければと思います。

【G委員】 1章の「社会を取り巻く情勢の変化」で、法令が幾つか変わったと1にあるのですが、これ以外にも結構いろいろ変わっていると思うのです。例えば医療介護総合確保推進法とか、市政にかかわるところでは国保の都道府県化とかいろいろある中で、なぜこれをタイトルにするのかがわかりません。

【H委員】 多くの方の市民生活に影響があるものということで、この3つを代表的に挙げられているのかなと思います。ほかに、28年4月施行の障害者差別解消法もこの時期の大きな変化だと思います。ですから、1は、その3つの法や制度というよりも、社会保障制度が大きく変わっていくという項目名にして、障害者差別解消法や雇用の問題も書き込むべきではないかと感じています。

まち・ひと・しごと創生は国全体で考えたときに非常に大きなテーマで、武蔵野市にも関係があるということで調整計画の中でも触れていくわけですが、市民生活への直接的な影響という意味では、1の介護保険や子ども・子育て支援に比べれば小さい。2のまち・ひと・しごと創生法と3の東京オリンピック・パラリンピックはどちらかという外的な要因で、2つを1つにまとめて書いてもいいぐらいのものではないか。1は社会保障制度の大きな変化で、非常に重要な問題だと感じています。

【委員長】 28年実施の差別解消法はこの中に入っているのですか。

【副委員長】 個別計画の中では、子ども・教育分野でたっぷり盛り込んでありますので、調整計画から漏れているということではないです。前にE委員から、新しくできた法律についてはどこかで列挙するみたいな提案も出ましたので、ページ数の関係はあるのですが、市民にとってはそのほうがわかりやすいと思います。

【企画調整課長】 まず1点目の制度の、なぜこの3つなのかというのは、H委員の発言のとおりです。ここはタイトルを社会保障制度全体にかかわるものに変更していきたいと思います。まち・ひと・しごととオリンピックの関係も、合体する形でできればと思います。

【B委員】 今の流れに反対するわけではないのですが、1が身近なところ、2がエリア、そのまち、3がグローバルという感じで分けたほうがいいのかという意見です。

もう1つは些末な質問ですが、4の人口増のところ、桜堤は特殊な事例で人口が増えたけれども、ほかのエリアも微増しているということでした。それは予想と違ったとか、何か微増の原因があるとか、教えていただければと思います。

【企画調整課長】 2004年と2014年で子どもの数を比較したら、市内全域で微増していました。他都市が減少しているとすれば、なぜ微増しているのか。そのあたりの分析はしていません。

【B委員】 2004年から10年間、市がどういうふうに推定していたのか。それと差分があればそれが変化ですから、そこに何か子どもたちが増える要因があるのかと思っただけです。

【企画調整課長】 そこは細かい分析はできておりません。

【F委員】 一般的に都市型で、ぎりぎりのところで増えたのは、団塊ジュニア世代が出産の最後のタイミングで産んだというパターンが多い。ただし、地区全体でとなると、もしかしたら全く別要因があるかもしれない。もし余力があれば細かく分析していくと、武蔵野市がどう考えるかというヒントが出てくるかもしれません。もし団塊ジュニアだとわかると、逆に言うと、その次がないということなので、その点もあわせて考えていくとよいと思います。

【委員長】 桜堤地区の人口増は、非常に多様な要因があると思います。今のマンション群敷地が更地で、民間に払い下げられてマンションが建つまでのプロセスに時間が結構かかっています。2004年からの推定はどうなっていたのかというB委員のご意見もありましたが、そのところを分析し切れてい

ない。その間に、経済環境の悪化とか、民間のディベロッパーの動きとか、建築規制などさまざまな交渉があったりして、読み切れていなかったのかなという気がします。その辺の過去の地域的なデータ分析は持っておられるのですか。

【B委員】 桜堤は本当に特殊だと思って、別で考えていたのですが、払い下げられて民活したものに新しい世代が集うということが特殊な事例でなく1つのベストプラクティスであれば、枠組みだけでも研究すると、何かセオリーになるものがあるかもしれないですね。

【D委員】 確定的な情報ではありませんが、子育て世代層が入ってこられた一番の理由はやはりマンション価格の問題だと思います。当初、非常に高価格で販売すると聞いていまして、子育て世代はなかなか入ってこないだろう、リタイアに近い高所得の方が入ってくるだろうという見込みを持っておったのですが、なかなか売れないということでコストダウンして取得しやすい価格になりました。

【A委員】 8ページの4に「市民施設ネットワークの再構築と都市基盤の再整備」とあります。一般的に都市基盤といいますと、道路、上下水道、その他のものも含まれるのですが、ここの記載は明らかに公共施設だけに限定して書かれています。都市基盤と書くのだったら、公共施設以外のものも簡単に押さえておいていただければ。どちらかにしていただきたい。

9ページの「調整計画の重点取組」の「重点取組」という言葉の意味を教えてください。10ページの5「吉祥寺地区のまちづくりの推進」が、かつて三駅とバランスよく書いていただいていたのに、なぜか今回、吉祥寺地区に限定して集中的にやるというお話がありました。「重点取組」というのはどういう意味で重点的なのかがよくわからないので、その2つを教えてください。

【総合政策部長】 「市民施設ネットワークの再構築と都市基盤の再整備」は、1行目に書いてありますとおり、「都市基盤及び公共施設」を「公共施設等」という形で表現するという一方で、公共施設のほうだけが強調されているような印象を受けたのかなと思いますが、この中では両方のことを言っています。終わりの2行の「整備水準・管理水準の見直し等を行うなど」というのは、特に都市基盤の道路とかそういうことを指しているのですが、もう少しわかりやすい表現をしたいと思います。

「吉祥寺地区のまちづくりの推進」ですが、「三駅ごとに個性を活かしたまちづくり」を推進することは前提です。武蔵境は今年度をもって整備がほぼ完了します。中央地区については、今年度、計画を始めたばかりで、まだ方向性が定まっていないのでここでは書き込めません。今回は吉祥寺駅を中心に書き込んだので、表題も内容に沿った表題をつけさせていただきました。

【A委員】 まさにここの数年はこれをやるよという意味で重点という書きぶりをされているのかどうか。三駅それぞれに住民の方がいらっしゃるんで、これはかなりひっかかるころだと思います。ここ1～2年の集中的なものとして吉祥寺地区を重点的に、開発の段階としても重要なところにあるというのはよくわかるのですが、調整計画の中でこう書くと、じゃ、ほかのところはどうなるのという印象を持たれると思います。ステージの関係で特にここ数年は吉祥寺に集中するというのであれば、そういうふうにしていただきたいと思います。その重点取組のスパンとお金の割り振りについてお願いします。

【総合政策部長】 吉祥寺地区のスパンは、調整計画の期間で実際に動き出すところまではいかなくて、

計画を検討する段階だと認識しております。ですから、スパンはちょっと長いということで、金額もはっきり明示するところまではいっていない。課題が大きいということでこの表題をつけさせていただいたとご理解いただければと思いますが、表題のつけ方をもう一度検討したいと思います。

【F委員】 中央に関しては方向性が定まっていなくて盛り込んでいないということだったのですが、今のご説明ですと、吉祥寺も課題は明確にわかっているけれども、方向性は定まっていなくて。つまり、いずれも計画案をつくる段階ですので、実はステージがあまり変わらないのではないのでしょうか。課題の大きさがという意味であればまだ理解できるのですが、A委員のご質問のステージの問題として考えるべきなのかという点については、今のお答えであれば、違うと理解してよろしいということでしょうか。

【総合政策部長】 課題の大きさという点では、中央地区もかなり大きいと認識しています。吉祥寺のほうは、例えばイーストエリアとか、整備の方向性みたいなものは固まっているのですが、具体的な事業実施はこの調整期間中に完成ということではなく、もう少し長くかかるだろうと思われまして。中央地区については、課題は大きいのですが、その辺の方向性も定まっていなくてという状況です。

【B委員】 武蔵野市長が11月に公会堂周辺を共同建てかえと表明されたことがここに色濃く出ているので、三駅と言っていたものが、集中的にやられるのかなとか、やはりこれは非常に重要な変化ですので、納得いくご説明をいただかないとなかなか進まないと思うのです。

【総合政策部長】 吉祥寺駅は、幾つかエリアを区分しております。イーストエリアにはコミュニティセンターと市の暫定駐輪場があって、そういった土地を活用して区画道路の整備を進めていくという計画はあるのですが、課題もあります。セントラルは土地の権利関係がかなり大きな問題になっておりますし、民間のビルの建てかえがなかなか進まないという課題もございます。それぞれエリアごとに課題があって、吉祥寺という市の一番の商業地区ですので、ここのさらなる発展につなげるよう計画をしっかりと進めなければいけないという課題意識です。

【D委員】 書き方については検討しなければいけないと思いますし、また、三鷹、境についての一定の配慮も必要です。11月の市長の公会堂周辺に関しての発言は、あくまで1つの方法として、そういうことも考えられるということをしたのではないかと推測しています。我々担当のほうでは、交通の問題とか、公会堂の問題とか、特に吉祥寺南口の課題の認識はあります。今いろんな方法にアプローチしながら、どういう方法でやるのがいいのかを考えております。その1つの選択肢として、エリアごとの建てかえという方法で問題が解決できるのではないかと検討もしたことはありますが、まだ全く目鼻のつく話ではありませんので、そこが集中して書かれているということではないと思います。ただ、そういう誤解も生じかねないところがありますので、ここの表現については、課題の認識はあるけれども、方法論がまだしっかり定まらないところを少しにおわせたような書き方にしていきたいと思っております。

【B委員】 課題は三駅とも山積していて、その中でなぜここだけなのでしょう。マイナスをゼロにする課題解決ではなくて、逆に、この三駅でここが一番吉祥寺の魅力を発信するところだから重点的に

やりますよという説明であれば、反対する人はいるかもしれないですが、ロジックは通ると思うのです。

【総合政策部長】 三駅とも重要だというのはやはり前提です。特に吉祥寺エリアは一番の商業集積地ですし、武蔵野市という吉祥寺と連想される方も多いと認識しております。課題はエリアごとにそれぞれあって、三駅ごとの推進なのですが、特に吉祥寺についての取組はしっかりやっていくべきだと考えております。

【企画調整課長】 最初のA委員の質問ですが、長期計画は「重点施策」という書き方になっておりまして、これは市議会でも議決されている部分ですので、ここは変えずに、調整計画のほうはもうちょっと小さく絞った形で、「重点取組」という言葉を使っております。ただし、重点取組の記載内容については計画案との整合を図らなければいけませんので、計画案をつくった段階で調整させていただければと思います。

【E委員】 これは今日で確定ではなくて、今後いろんなことを議論されていくということで、僕としてはすごく安心しました。「社会を取り巻く情勢の変化」と重点取組がもうちょっと関連していなければいけなかったのではないかと。例えば「東京オリンピック・パラリンピックの開催決定」とか「桜堤地区を中心とした人口増」に関しては、重点取組にはそんなに強い記載がない。オリンピック・パラリンピックを契機に障害者スポーツをどうするか、そこはまだ議論できていませんね。その辺の議論があった上で変化があっているのかなと思っていましたので、そこのところは、もうちょっと時間をかけていいのかなと思いました。

【G委員】 関連ですが、重点取組の4は、情勢の変化がなく、突然やってくるという感じがするので、これに対応する情勢の変化があるなら、それを書き込むべきだと思います。

2の「多様な主体による子育て支援施策の実現」に、これまでの市民意見交換会の意見があまり反映されていないと私は感じます。新しい制度でも、これまで民間でやっていた小規模保育も含めて、市の責任において確保していかなければならないとなっているはずですが、「市の責任」が感じられないのです。新しい子ども・子育て支援制度の中で、住民のニーズに基づいてということが強くうたわれているのですが、市民意見交換会で、市の数の見込みが実態のニーズを反映していないという意見がたくさん寄せられているので、そこは重点的な取組として書いておくべきだと思います。

【企画調整課長】 まず、全体の重点取組のつくり方は、1月か2月に委員長、副委員長と打ち合わせさせていただいたのですが、施策の変化から持ってきているというより、この先5年間に何ができるかという、ちょっと進んだ形で書いているつもりです。ただし、環境共生のところは、前は新クリーンセンターの建設と周辺まちづくりの推進で、ここだけ逆に大きく捉えているので「新たな取組」というタイトルをつけたのですが、それが流れからすると違和感が出てしまったかなと思っています。

子育て支援のところは、五長は子育てネットワークの多層化という広い概念で捉えていたのですが、今回は「子育て支援事業、待機児解消のための保育所施設の整備、小学校の放課後施策の充実」という3つの事業を具体的に書いたということで、市民意見を反映したという理解をしておりました。

【E委員】 4のところは、外的な情勢の変化や市内の情勢の変化はさまざまあって、だから重点取組

を組むというのはあると思いますが、それとは別に、重点取組の中には、五長とか四長のころからずつとやってきたという部分も当然ある。だから、前の環境の変化に載っていないでもいいと思うのです。

【企画調整課長】 ここは重点取組ですから大きく捉えて、個別の細かい部分については計画案の中に盛り込んでいくような書きぶりをしていただく。それを見ながらこちらでも調整しながらと思います。

【A委員】 前の五長のときも、重点施策と、後ろの基本施策1とか2とか、たくさん出ていますね。今回横串が入ってきて、さらに複雑になった。この後、重点と個別が出てくると、全体が何層になっているのか、それとも全くばらばらで縦割りになっているのか、よくわからないというのが正直なところ。横串の考え方はすごくいいと思ったのですが、重点取組と、個別の基本施策1、2の関連の考え方が整理できないので、後日でもいいのですが、全体の流れの組み方を教えていただければと思います。

【F委員】 もともと調整計画では、まちづくりの目標として、自治と連携、支え合いをつむぐ、平和などといった一番大きい理念が書かれています。これは調整計画全体のミッションになるわけですね。7ページ下の「調整計画全体に関わる視点」は、個別の計画に入れても、すぐにほかのところでも必要になっていくので、横串が必要だということを議論してきました。これを「視点」と表現されているのですが、若干抽象的でよくわかりません。個別計画の全てにおける視点というか発想みたいなものなのか、もっと具体的な方法論を提示しているのか。とくに1はどちらかというミッションに近い発想をとっており、あとのものは方法論に近いものが策定されているので、レイヤーが若干ずれているような気がしました。この点についてお伺いできればと思います。

【企画調整課長】 横串を貫くと考えたときに、「視点」のほうがしっくりくるかなという程度で。実は四長の調整計画では、「視点」という言葉を使っています。五長の議決部分との兼ね合いがありましたので、なるべく違うニュアンスを出したかった。横串については、事務局で考えたというより、今まで積み上げてきた議論の中で、これは全体の課題だというものを拾い上げてきたので、具体的なものもあれば、理念的なものもあるという意味で、レベル感は違っているかもしれません。

【B委員】 武蔵野市らしさでいうと、地域フォーラムをつくり、自治会がないわけですから、Ⅱの2、「地域コミュニティ、地域活動の支援と協働」にすごくこだわるべきではないかと思っております。今後、少子高齢、子育てなどを見据えても、地域の力というところが重点取組に回ったほうが、武蔵野市らしさになるのではないかという意見です。

【企画調整課長】 地域フォーラムの提案は、五長のこの3年間の動きとしては大きなものです。今、コミュニティ担当課のほうでも、地域フォーラムを試行的に実施しておりますので、それを重点取組として挙げるというのはあるかなと思います。

【委員長】 横串ですから理念と個別とを貫かなければいけないのですが、大事なのはやっぱり理念に基づいてそれぞれのところが動くことです。そこを書こうとすると、結局、個別問題を書かざるを得なくなると、次元の違う問題が同時に入り込んでくる。その辺、書きぶりをどうしたらいいですかね。

【F委員】 「調整計画全体に関わる視点」は、1つの領域におさまらないものを全て書いているということを書いてしまっていないのでしょうか。すなわち、健康・福祉とか、子ども・教育という領域におさまらない、全体を貫くものだというのを打ち出し、初めにリード文をいれることによって、読み方が変わってくるのかなと感じました。

【委員長】 「全体に関わる視点」という表現で、その思いを込めていただいたのかと思うのですが、この書きぶりでは横串の概念が伝わっていないという気がしますね。だから、混乱してしまう。

【企画調整課長】 最終的には、横串のところは、分野と基本的視点の縦横のマトリックスで、この視点で取り組んでいる事業はこうですというような形で参考資料として載る予定です。

【副委員長】 最後のページの6の「情報収集・提供機能の強化と連携」の2行目で、表現の問題ですが、「市政運営への市民参加を進めるためにも」というフレーズが入っている。これをそこだけ切り取って読むと、市は市民参加を市政運営しか求めていないのかと読んでしまうと思うのです。今回、調整計画で一番大事にしていたのは市民参加の部分で、市政運営の市民参加だけでなく、サービス提供の主体としての市民参加も盛り込んできましたので、表現を工夫していただけるとうれしいと思いました。

(3) その他

(企画調整課長から、次回、次々回委員会日程について連絡があった)

閉会 (午後9時17分)